

「地震・津波から生き抜くたくましい児童を育む防災教育 ～自助から共助へ～」
令和3年度 高知県学校安全総合支援事業（災害安全）

南国市教育委員会 拠点校 南国市立十市小学校

1 事業の目標

（1）モデル地域の現状及び安全上の課題

南国市は高知市に隣接しており、南は太平洋に面している南北に長い市である。沿岸地域、山間地域、市街地と様々な条件下に学校が設置されており、地域によりそれぞれ自然災害に対する備えは異なってくる。

今回の拠点校である十市小学校は、想定される最悪の場合、西部の石土池からの浸水、小学校周辺の液化化現象、周りの山からの土砂崩れ等様々な災害が想定される。そこで、太平洋沿岸部の学校としての防災教育、防災・減災教育が展開され、児童を中心に家庭や地域が防災意識及び防災力を高めることが重要である。

（2）モデル地域の事業目標

高知県における防災教育の目的である「最強クラスの南海トラフの巨大地震が、いつどこで発生しても、子どもたちを一人も死なせない」ために、大きく2つのことを行っていく。

- ① 南海トラフ地震や津波・土砂災害に備え、学校での防災教育の充実を図る。
- ② 地域や防災関係機関との連携体制の強化・充実を図るための取組を企画し、実施する。

取組をリードしていく拠点校として、南国市立十市小学校を指定し、先進的でモデルとなる防災教育を研究していく。拠点校の取組は、実践委員会を中心にして、中学校区の各学校や地域等と連携しながら深めていく。

2 モデル地域の取組の概要

（1）安全教育の充実に関する取組

ア 安全教育の充実に関する取組

- 【児童・保護者を対象とした防災意識調査アンケートの実施】
- 【効果的な避難訓練の実施】 【防災に関する指導方法の開発】
- 【防災に関する指導法の普及】

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

事業の成果指標に係る必須項目と南国市で設定した任意項目に加え、学校安全計画に位置付けた「防災の授業（年間小中学校5時間以上）」と「避難訓練（年間3回以上）」を盛り込んだアンケートを南国市内18の小中学校でとり、評価・検証を行う。



（2）組織的取組による安全管理の充実に関する取組

- ・南国市防災教育研修会や校長会で危機管理マニュアルの見直しの依頼を行った。
- ・11月28日（日）に防災教育研究発表会を開催し2年間の学びを公開した。

（3）学校安全担当教員の資質向上に係る取組

・5月10日（月）に南国市防災教育研修会を行った。本年度防災教育の指定を受けている十市小学校の1年目の取組を発表していただき、各校の防災教育の参考にしていただくよう依頼した。また、高知大学の岡村眞名誉教授に「近づく南海トラフの巨大地震～大川小学校最高裁判決から学ぶ地震・津波マニュアル作成ポイント～」の講演をいただき、各校が持ち寄った危機管理マニュアルの見直しを行った。

（4）モデル地域全体への普及

- ・本年度は小中学校交流事業中止のため、市長報告会も中止になり実践校の取組を発表

する機会がなかなか持てなかった。

・実践委員会で情報共有を行うことができた。会を欠席されていた方には、後日資料をお返しする形をとった。



(5) その他の主な取組について

・本年度は宮城県の現地へ行っての視察・交流は行えなかったが、岩沼市の玉浦小学校と南国市の十市小学校とをオンラインで結び、交流を行い、先進的な防災への取組を聞くことができた。

3 拠点校の取組

(1) 拠点校の目標

近い将来発生すると言われている南海トラフの巨大地震が、いつ発生しても自分の命を自分自身で守ることができる知識と対応力を児童に身につけさせることが、本校でも急務である。また、そのための取組を公開授業や実践発表等で情報発信し、市内の各学校が自校の防災教育及び防災管理に活かすような推進体制を構築する。

(2) 安全教育の充実に関する取組

【防災意識調査アンケート県アンケート例実施結果の分析】

児童及び保護者に向けての「防災アンケート」を実施した。昨年度1回目と本年度1回目を経年比較した結果を根拠に、取組のポイントにそった成果と課題を検証する。

【効果的な避難訓練実施】

○様々な場面や状況を設定した訓練を年間10回実施。

【防災に関する指導法の開発及び普及】
…年間を通じての校内研究授業



令和3年度 十市小学校避難訓練年間計画

	日程	種類	内容	目標	次につなげたいこと
第1回	4/16(金) (各自)	地震	地震時の避難場所は多目的室であること・集合の仕方を確認(発進段階に応じて、各学年で工夫する)	一次避難の仕方を確認する。	次回、避難訓練の時は、多目的室に避難しよう。
第2回	5/18(火) (全校)	地震	地震・火災の恐ろしさと災害から自らの判断で身を守ることの大切さを知る。	既習の知識・学習を振り返り防災意識の大切さを自覚する。	プールにいるとき地震が来たら、どこに行けばよいだろう。
第3回	6/10(水) (各自) 1週間以内	地震	【1】プールで更衣中に地震が起きた時の身の守り方と避難場所の確認と確認。 【2】地震の際、プールのサイドでどんなことが起きるのか。知識の学習	いつもと違う環境での被災でも自分の命を守る行動がとれる。	掃除中に地震が来たらどうしたらよいだろう。
第4回	6/14(月) (全校)	地震	掃除中に地震が起きた時の身の守り方と避難の仕方の練習	集団で避難するときは、班長の指示を聞いて素早く避難する。	クラスみんなが揃っていないときはどうすればよいだろう。
第5回	9/13(月) (全校)	地震	様々な場所で生活しているときに各自で考えて避難する練習。(昼休み 13:15 給食13:10分付)	一人でも身の安全を確保し、多目的室まで障害を想像しながら逃げる。	多目的室は一次避難場所であることを知っておこう。
第6回	10/21(木) (全校)	地震・津波	津波を想定して、二次避難場所(エコハウス)へ移動する練習。	集団でできるだけ素早く逃げる。	もし、エコハウスに行けないときはどうすればよいだろう。
第7回	11/26(金) (全校)	地震・津波	津波を想定して、峰寺へ移動する練習。	集団でできるだけ素早く逃げる。	状況に応じて3か所の逃げ場がある。自分の命は自分で守ろう。
第8回	12/16(木) (全校)	火災	給食室での火災を想定して、運動場へ逃げる練習。	地震と火災の時の避難場所や避難の仕方に違いがあることに気付く。	では、地震と火災が同時に起こったときどうすればよいだろう。
第9回	1/17(月)	地震・火災	揺れの後、火災が起きた時、どこに逃げるかの練習と確認。	多目的室へ避難できないときにどこへ逃げるのがよいのか判断する。	運動場へ逃げてから二次避難しよう。
第9.5回 (10月27日)	未定	地震	10回に向けての事前指導。6年生は、趣旨を理解。1～5年生は、自分の下校地区を確認し、安全な場所を考えながら登下校	身の回りの環境を加味し、通学時を想定した避難行動について考える。	10回に向けて、命を守る行動を考えよう。
第10回	2/8(火) (全校)	地震	登下校中に被災した時の安全確保の仕方と複数の避難場所の確認。「防災下校マップ」の作成	個々に命を守る行動がとれるように通学路での安全確保がとれる場所を考える。	とにかく高いところへ逃げよう。

○全校研究授業研修(2年・3年・6年)

<2年 全校研>

<3年 危機管理課の方のお話>

<6年 ICTによる情報活用>



○低・中・高学年ブロック研究授業研修会（1年・4年・5年）
 <1年 危険箇所を考える> <4年 グループ発表の様子> <5年 防災音頭発表練習>



防災教育研究発表会…11月28日（日）

○防災教育研究発表会を開催、1年間の学びを公開した。当初の計画では、高知県PTA連合会土長南国研修大会との合同開催を予定していたが、コロナ禍を受け本校PTAのみの参加となった。その他には、市内外の小中学校教員・地域（十市地区防災教育実践委員会）・委員会関係者の方々など、のべ100名程の参加となった。

（3）安全管理の充実にする取組

【「十市地区防災教育実践委員会」での情報交流】

- 第1回は令和3年6月20日（木）18：30より本校図書室にて開催
 （県学校安全対策課等あいさつ、学校より実践報告、各地区から防災取組情報交流）
- 第2回は令和3年11月18日（木）18：30より本校多目的室にて開催
 （防災講演会：高知工業高等専門学校 岡林教授、研究発表会について、防災取組情報交流）

（4）成果と課題

○コロナ禍により計画通りにはいかない面もあったが、年間10回程度の避難訓練を実施することができた。（前ページの年間計画表を参照）

○十市小学校防災教育研究発表会参加アンケートより

- ・設問1「公開授業は、今後の実践の参考になったか」、設問2「全体会の内容は今後の防災実践の参考になったか」に対する肯定的評価はどちらも、ほぼ100%であった。
- ・自由記述欄から参加者の声をあげる。

掃除の時間に避難訓練があり、できた行動はダンゴムシのポーズで頭を守り素早く列に並びます。「もっとこつこつできる。」「は、もっと想像すること、もう少し防災についてくわしくなることです。
 次回は、〇〇さんみたいに低学年を助けられるようにしたい。
 共助は、共に助けるので、まず地震が起きたら、掃除のときは低学年を守り、学校外だったら、おしいちゃんおばあちゃんを助けてあげたり、登校中だったら、周りの低学年を集めて一緒に避難したりします。
 もし家の中だったら、お母さんとお父さんのいうことを聞きながら弟を連

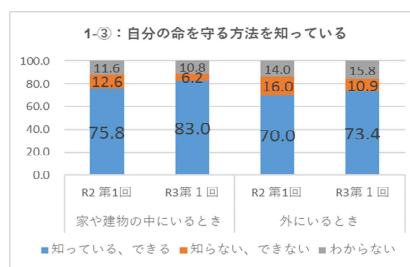
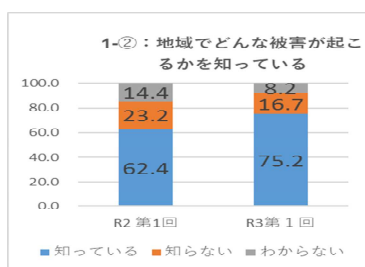
■本日の講演では学校での防災だけでなく、個人としての防災習慣や関心について考えさせられる大切な時間になりました。南海トラフについてはどこでも耳にするが、自分事として捉えられていたか、自分自身が考えさせられた。自校の生徒も防災バッグや避難所の確認などを改めて確認することも含めて基本的なことから学び直す必要性を感じた。（後略）

○防災意識アンケートの結果から

【昨年度～本年度アンケート（児童用）の経年比較より抜粋】

・どのデータにおいても昨年度から、肯定的回答の数値に上昇が見られる。しかも、それぞれの質問で70%以上の高い水準で推移しており、学校での授業実践により、ほぼ大部分の児童が災害時の様子や身の守り方を具体的に知ることができたと捉えた。

[児童1-②] [児童1-③]



・本紀要掲載の年間10回の避難訓練の実施により、南海地震発生時の状況や身の守り方、安全な避難場所の把握は進んでいる。
〔児童1-④〕

【昨年度～本年度（保護者用）の経年比較より抜粋】

・地域と連携した実践や取組をすすめることで、各家庭における南海トラフ地震への関心の高まりがみられる。また、それに向けての具体的な備えもすすんできている。

〔保護者1-⑧〕

ただ、学校や家に居る時よりも「登下校時」の方が安全に対する不安が大きいことが考えられ、家庭の学校防災教育に対する期待も大きくなってきている。〔保護者1-⑩〕

<課題>

・本校の現状と来年度に向けての課題は明確にできたものの、昨年度よりのコロナ感染予防対策の影響を受け、特に1学期の全校避難訓練が難しく計画の変更が多々あった。（地域自主防災組織との合同活動や土長南国PTAとの共催も変更を余儀なくされた）

・地域防災教育推進委員会の組織づくりの際にも明確になったが、地域としての連携の強さが地区により大きな違いがある。地域をあげての防災活動を行う際の「弱み」と言える。保護者用アンケートには、周りの住民と「協働」しての防災意識と役割を明確にもっていない実態がみられた。〔保護者1-⑨〕

4 事業の成果と課題

- 必須項目の成果指標においては、事業実施前の段階から高い割合を示している。ここ数年、南国市で高知県実践的防災教育推進事業の指定を受け続けているため、各校の防災に対する意識が高くなっていることがわかる。
- 危機管理マニュアルの見直しについては、今年度100%を達成することができた。校長会を通じて依頼をしたり、高知県学校防災アドバイザーでもある高知大学 岡村真 名誉教授に南国市防災研修会で危機管理マニュアルの見直しにつながるような講話をしていただいたりしたことが達成率向上に繋がったと考える。
- 南国市防災研修会や防災教育実践研究会で拠点校の取組を発表することにより、学校安全担当教員の指導力向上を図ることができた。また、拠点校の取組を参考に、安全教育及び安全管理等に活かす取組をした学校が約9割に達した。
- 避難訓練の実施回数が少ない中学校や浸水・土砂災害区域でない中心部の小学校では、様々な場面や状況を設定した避難訓練を3種類以上実施することができなかった。

5 今後の取組の見通し

拠点校を中学校へ移行していき、近い将来発生が懸念される南海トラフ地震や頻発する豪雨災害等に対し地域防災力の向上を図るため、若い世代の「地域を守る意識」を中学生自らが持つことができる防災学習を推進し、将来の地域防災リーダーの育成を図っていく。

